

令和 7 年第 7 回 安芸太田町教育委員会議録			
招 集 年 月 日	令和 7 年 7 月 22 日 （火）		
招 集 場 所	川・森・文化・交流センター 3 階 エコ学習室		
開 閉 会 日 時	開 会	令和 7 年 7 月 22 日（火）午前 9 時 30 分	
	閉 会	令和 7 年 7 月 22 日（火）午前 10 時 10 分	
出席・欠席委員	出席委員	池野博文・清胤祐子・河本千絵・小田純子	
	欠席委員	大野正人	
職務により会議に出 席 し た 者	教育次長 課長 主幹 主幹	長尾航治 清水裕之 佐々木裕美 小坂法美	
会議に付した事件 及 び 採 決 結 果	議案第 20 号	安芸太田町部活動の地域移行・地域連携検討協議会委員の委嘱について	可決
報 告 協 議 事 項	1 安芸太田町教育振興基本計画 指標について 2 第 13 回科学アカデミーについて		

【 議 事 録 】

日程第 1 開会

(午後 9 時 30 分開会)

清胤委員 (教育長職務代理)

皆さま、おはようございます。本日も教育長さんが入院の為、私の方で司会をさせていただきたいと思います。ご協力をお願いいたします。本日の会議の議題はお手元のとおりですが、最後にまわしたらいいものなどありませんか。

(意見なし)

日程第 2 教育長報告

清水課長)

教育長報告について、以下の項目について説明

1 7 月の教育委員会の動き等

- ① ホノカア高校 小・中学校交流事業 (安芸太田中、筒賀小、戸河内小) (1 日)
- ② 修道プール掃除 (2 日)
- ③ 広島県西部教育事務所芸北支所定期訪問 (安芸太田中、筒賀小、戸河内小) (2 日)
- ④ 猪山プール掃除 (3 日)
- ⑤ ホノカア高校 小・中学校交流事業 (加計中、加計小) (4 日)
- ⑥ 町教頭・事務長研修会 (8 日)
- ⑦ 青少年育成安芸太田町民会議主催音楽会 (戸河内小、加計小) (10 日)
- ⑧ グラウンド整備車両・用具寄贈式 (11 日)
- ⑨ 温井プール掃除 (14 日)
- ⑩ 第 1 回愛ネットワーク安芸太田会議 (14 日)
- ⑪ 中国地区市町村教育委員会連合会研修大会 (17 日) 欠席
- ⑫ 青少年育成安芸太田町民会議主催音楽会 (安芸太田中) (17 日)
- ⑬ 小・中学校 1 学期終業式 (18 日)
- ⑭ 町教育委員会会議 (22 日)
- ⑮ 広島県町教育長会議 (web) (22 日)
- ⑯ 保・小・中・高連絡協議会 (23 日)
- ⑰ 令和 7 年度全国高等学校総合体育大会総合開会式 (24 日)
- ⑱ まち・ひと・しごと推進会議 (24 日)
- ⑲ CoREF 拡大研修推進委員会、担当者会議 (24 日、25 日)
- ⑳ 安芸太田町教職員初任者研修 (25 日)
- ㉑ 全国高等学校ライフル射撃競技大会 (28～31 日)

② 科学アカデミー（30 日）

③ 令和 7 年度山県郡学校保健会総会、研修会（31 日）

2 教育委員会 P V

教育委員会施策と事務局や学校・園・所、放課後支援等の活動について広く町民に周知を図り理解を得ることを目的として、P Vを制作しています。

ここまで、「学校・園・所支援ボランティア募集」「保育士募集」についての 2 作品を、ユーチューブ安芸太田公式チャンネルに掲載しています。

清水課長）

事務局からは以上です。

清胤委員）

何かご質問ございますか。

河本委員）

1 番と 5 番のホノカア高校との交流事業について、どういう事をされたのか教えていただきたい。

清水課長）

加計高校とホノカア高校が提携している中で、ホノカア高校が広島に訪問した際に、小中学校の方にも訪問して、ハワイの文化を伝えてもらったり、それから逆に日本の文化に触れてもらうような交流の機会を作ったりしております。私は加計中学校の交流事業の方に参加をさせてもらったんですけども、高校の方からはハワイについての説明であったりだとかフラダンスを中学生と一緒に踊ったりということがあります。中学生の方は生徒会が考えたんだと思うんですけども、福笑い体験をやっていました。とても楽しそうな、あまり言葉が通じなくてもできる活動でもあったのでとても充実した時間をお互いに過ごしていたのではないかなと思っております。

清胤委員）

他にございませんか。

清胤委員）

ここには無いんですけど、先日選挙がありましたよね、高校生でも選挙権を持っている生徒さんいらっしゃるんですがそういう生徒さん方の動向っていうのはわかりませんよね。

長尾次長）

主権者教育の一環の中で、以前加計高校熱心に主権者教育を実践の形でやられた先生がいらしたんですが、今はもういっしょじゃなくて、見える活動自体は有りません。ちなみに私、今回は投票区の方へ出さしてもらいましたが、現役高校生が選挙に来られました。そういうようなこともありますので、結構浸透してるんじゃないかと思います。ご承知の通り、安芸太田町は県内で二番目の投票率の高さということで今回も結構高い投票率でございましたので引き続き主権者教育もしっかりやっていく必要があるかなと思って

ます。

清胤委員)

全国ニュースなんかで、投票したら投票しましたっていうカードがいただける市町村が結構増えていて、私の友達なんか皆もらったよって、近くのラーメン屋さんが半額になったとか大人でも喜んで言っていて、大人の高齢者の多い地区ですから投票率が高いっていうのは本当ありがたいことなだけけれども、少なくとも高校生達がどうだったのかなと思って。やっぱり安芸太田町でもそういうものが全国的にあるなら発行してあげたらちょっと違うんじゃないかなと思ったりもしたんですが、それは教育委員会での議論じゃないかもしれませんが。どうか投票率をもっと上げていく活動も、子ども達の社会への参加っていうのは生きた社会科の勉強だと思いますし、将来に大きく関わってくる事です。どうかよろしくお願いします。

よろしいでしょうか。では次にまいります。

日程第3 議事

清胤委員)

議案第20号安芸太田町部活動の地域移行・地域連携検討協議会委員の委嘱についてを議題とします。事務局より説明をお願いします。

清水課長)

(安芸太田町部活動の地域移行地域連携検討協議会委員の委嘱について説明)

清胤委員)

何かご質問ございませんか。

小田委員)

今の時点でどれぐらいまで話が進んでいるか、もし分かれば教えてください。

清水課長)

昨年度1回この会を行いまして、今年度もこの会を行っていく予定なんですけれども、現時点においては、それぞれの学校の様子や地域の様子を共有するということで今のところ終わっています。その会の中で今後、部活動はどうあるべきかという話もあったんですけれども、なかなか安芸太田町の実態を考えると、地域のクラブとかっていうのはとても数が少ないところもあるので、この学校にある部活動が子どもの運動の機会を保障するための一番の方法なのではないかということで、地域に展開していくというよりも地域人材の力も借りてこの部活動を継続させていくということが現時点では安芸太田町には合っているのではないかなというように今のところ話が進んでおります。国の動きも少しずつまた変化しているのもありますので、国の動向、それから他の市町の動向も注視しながら、一番持続可能な運動の機会の保障のあり方ということを考えていきたいと考えております。

清胤委員)

他にございませんか。

河本委員)

部活動、すごく気になってます。息子が野球をしているので。高校野球の連合チームが増

えてきてるんですけど、地域の人数が足りないという事で遠方同士がしんどいということがあるけれども、それでもやっぱり出たいから、みんな工夫して出てきて熱い試合をしているという。そういう経験は絶対にさせてあげたいんですけど、なかなか安芸太田町では厳しい状況なので、地域って一言で言っても、実際じゃあ指導者は誰がいるんだろうとか多分見えないというか想像がつかないので、その辺の人材とか地域の方と実際に話をする機会がない。

清水課長)

この協議会が一番の協議の場になろうかと思うんですけども、今年度、私も体協のですね、総会であつたりそういうのも参加させていただく中で、学校部活動についてもちょっと話は出ました。また6月の議会の中でもですね、一般質問の中に部活動の先ほど河本委員さんの話に出た合同チームについて安芸太田町の状況を教えてほしいという質問がありましたので安芸太田町の中でもとか、北広島町の学校と合同でチームを組んで中体連主催の大会に出場している、というようなケースはこれまでありますということは伝えさせてもらっています。学校・園・所ボランティア制度も活用しながら地域の方でどのぐらい部活動に力を貸していただけるかとかそういうような方もこれから探していく必要はあるかなと思っております。地域と一緒に協議する場というのは、今の時点で持っていないんですけども、そういうような場を持つべきであれば今後、この検討協議会の中で協議をして実際に動いていく流れになるかなと思っております。

清胤委員)

安芸太田町の地域ごとの話し合いってというのが割としっかりしているんじゃないかなって。月に一度なくても半年に一度は必ずあるような感じで私たちも関わっていますけれども、その中でプライバシー配慮のことはあると思うんですけど、どんな資格を貴方は持っていますか、どんなことに興味がありますかとか、そういうアンケートじゃないけれどももっと堅苦しくない感じで、先生方を探すにもこうプールの監視員探すにも、そういう名簿みたいなものがしっかりと探しやすいんじゃないかなと。どんなことなら協力していただけますかって、次代を担う子ども達を育てるために貴方の力が必要です、どんな部活動を若い頃されていましたかとか。答えやすいような堅苦しくないアンケートで全員に提出していただいたら、案外眠った人材っていうのがいらっしゃるんじゃないかなと思います。ここに住んでいてよかったなと思ってもらえるような、温かい地域あげての指導みたいなものに触れ合ってもらえると違うかなと思ったりしますので、もしよかったらご検討ください。ほかにございませんか。

(意見なし)

清胤委員)

それでは、お諮りいたします。議案第20号安芸太田町部活動の地域移行地域連携検討協議会委員の委嘱についてを原案のとおり賛成の方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

清胤委員)

全員賛成です。よって議案第20号安芸太田町部活動の地域移行地域連携検討協議会委員の委嘱については原案のとおり可決されました。

日程第4 報告・協議

清胤委員)

報告・協議1 安芸太田町教育振興基本計画 指標についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。

清水課長)

(安芸太田町教育振興基本計画 指標について説明)

清胤委員)

かわいい絵が入って見やすいですね。次の絵なんですけど、川で遊んでるじゃないですか。この絵の中に大人がちょっと登場してないんですけど、子ども達同士で遊べる環境だったらいいですけどね。

清水課長)

そうですね、自然保育の状況をイラストとして表して、もちろんこの写ってないところには保育士の絵があるんですけども。表紙の絵についてちょっと協調学習をイメージしました。

清胤委員)

20歳を祝う会の後の聞き取りでも協調学習が凄く思い出に残っていると言っていましたね。何かご質問等ありましたらご自由に出してください。

河本委員)

項目が1から11まであってアイチェックの指標があって、ちょっと良く分からなくて。1から11の項目が成功体験と自信のカテゴリーとかどうやってチェックするんだろうって。肯定的に回答した学年数ってまた大きな枠なので、学年数が超えてれば大丈夫なのかなって思ったというか、指標難しいですね。1つのものにまとめてチェックしていくっていう事なんで。なんか難しいなと思って、この表を見えています。

佐々木主幹)

ありがとうございます。私たちのほうで考えた指標の部分ではあるんですけども、たくさん11ほど項目があるものをそうはいつても一個ずつ指標をつけていくとなるとまた混乱もしてくるところがあるかと思い、この1から11の根幹となる部分については、それぞれの個人の成功体験の部分、自信が高まっている、自己肯定感が高まっているっていう風な所があってそこが1から11にそれぞれ普及していくのではないかと、というふうな考え方のもと成功体験と自信のカテゴリーにおいて肯定的に回答した子ども達の数を使用できたらなと考えました。8/9となっているところは小学校が6と中学校が3ですので、合わせて9そのうちの1学年がまだ達成できてないんですけども、全員がそういう気持ちになっている状態を目指したいなという思いでこのような指標を設定しているところです。

清胤委員)

その一つの学年はちなみに何年生。

佐々木主幹)

ごめんなさい、ちょっと今定かではないんですけど。

河本委員)

最初の1年生とかの楽しくてしょうがないっていう時代よりは、もしかしたら途中の学年かもしれないですけど、そこら辺の子どもの成長と、こう気持ちの揺れ方みたいなのが関係してるんだと思うんですね。そこを見てじゃあ次こんなことを入れ込んでいこうとか、そういう風に繋がっているんですね。

佐々木主幹)

このカテゴリーというふうに書かせていただいているんですけども、この中にもさらに複数個の質問があって、その複数個がまとまったものが成功体験の自信というカテゴリーの1つになっているので、達成した、達成してないというふうになったとしてもそれぞれ状況が違ってくる部分はもう少し詳細に見て取れるかなというふうに思いますので、その後また違ったステージの方に進んでいけたらなと考えています。

清胤委員)

分母が少ないからとにかく難しいですね。

長尾次長)

単純に実施回数とかね、そういうものを指標にすると指標的にはすごくわかりやすく簡単になるんですけど、要は押付けになる可能性もあります。例えば道德の推進とかって書いてあるんですが、じゃあ道德の授業回数を増やせばいいのかっていう話になります。そういうことではないので、あくまでもやっぱりアウトプットのところの部分に着目したいという指導担当からの思いでですね、こういうような指標にさせてもらっています。数字的なものだけをこう取っていけばですね、町の長期総合計画なんかの指標で言うと実施回数とかってすごくたくさんあるんですけど、教育に関しては項目になりません非常に難しくてですね、そういうところと言うとこの指標に関しては、かなり頭を悩ませながらみんなですね、最終的にここが良くなったらこうなってくるよね、っていう話の中でですね、実数がつかめるものとか実数で勝負できるものについては実数の指標を入れてます。

河本委員)

だからどこかでまた評価されていると。評価は誰が。

長尾次長)

教育委員会の事業ですね、事業についての評価というのは一年間で必ず1回、評価を行っております。社会教育委員会の中でその評価を外部委員でやっていただくというのが原則なんですけれども、これも法に則ってやっておりますけれども、その部分をですね、今後こういう指導の部分でもですね、話をさせてもらえればと思っております。

自己評価としてまずこの教育委員会議でこういうふうな数値になってます、という話は必ずいるんだと思うんですね。その中で外部評価で今後はあそこが達成度合いがどうなのか今年度の状況はどうなのか、そういった話をご指導いただく、という流れになると思います。

河本委員)

数字だけを追っかけてしまうと数字にもっていきたくなくなってしまうじゃないですか。だから私が質問したときにそのすべての根幹にあるベースは個々の成功体験と自信なんじゃないか、っていうところにたどり着いたみたいな、数字よりそっちを聞きたいのですが。なんかそういうのがあると、どれだけ皆さんが子ども達のことを見た上でこういうふうにもって

いかれたんかなってというのが伝わってくるんですね。どっちかというところが見えるような感じで評価を受けるまでのものがあつたらいいなと思います。

長尾次長)

実績の話をする時は、そういった話を交えながらすることになると、最終的にももちろん目標数値っていうところを具体的な数字で示さないといけないので、やってるところは今の今回お示しをさせていただいた目標値の設定にさせてもらってます。もちろん細かく分析というのもあると思いますので、そこは今後この目標の一つひとつですね、実績のお話をさせていただくときにそういった議論が展開されれば、より良い方向に進むかなと思います。

池野委員)

基本的なことを聞きますが、現状値と将来の目標値か、これは現状でいい、ということですか。

清水課長)

そうです。

池野委員)

例えば社会教育主事は1人いますがこれ異動したら居なくなるわけで、その時には1人追加するという事ですね。ある意味荒っぽい表現だと思いますよね、指標はね。だからどこをすくって、全体を表すかっていうことなんだろうと思うんだけど、実際は厳しいと思うんですけど、これだけじゃね。例えば「生涯学び活躍できる環境整備」で、それを教育委員会の教室の実施回数で表せるのかどうか。逆に言えばパソコン教室が本当に町民のニーズに合っているかどうかという検証を含めてやると何かを出さざるを得ないっていう部分もあるし何かでもって判断しなきゃってことがあるんだろう、そこら辺の難しさが感じます。

清水課長)

この指標の一番下のところですね、数字がいろいろずれているのは教育振興基本計画に載っている、政策の順番を一番左の基本的な目標基本方針5つのところに振り分けたときにはどうしても数字にばらつきが出てしまう、紐づけるのがどうしても数字が変わってしまうところがあるのでそこらへんが少しひとつ数字の面では順番になってない見にくさがあるということをちょっとご容赦いただきたいんですけれども。その中でも一番下の17番の指標は、各指標および目標値の再検討協議会数ということにしております。5か年の教育振興基本計画なんですけれども、毎年度ですね、果たしてこの指標で妥当かどうかとか、信頼おけるものなのか、また数字に表せないところをどれぐらい協議していくべきかということについては、その都度こちらでも検討していった状況によっては指標を変更したりだとか目標値をより上げたり下げたりということをまずは事務局の方でも協議検討していくことは考えております。またいろいろな機会です、ご意見をいただければそれを今後の指標や目標値の方に反映させていきたいと考えております。

小田委員)

学校・園・所の支援ボランティアの登録人数というのは、今のところ何人ぐらいいらっしゃるのですか。

清水課長)

現時点で私の記憶する限りは13名ではないかと思います。皆さんもご応募ください。

清胤委員)

これ読み解くのが難しいですよ。だから最初に絵もあり字を大きく箇条書きにしていた所なんか、私は見てすごい頑張ってくださってるなと思います。外部団体が評価するってことなんでしょうけど、本当の評価は子ども達の笑顔や私たちのやってよかったっていう満足感がA Iでない人間なんで、そういう部分を読み解いていただいたらありがたいなと思いますけど。今日はですね、午後からちょっと悩める母子の会とかに呼ばれていて。1時間講演してその後実際に子ども達も一緒に遊んでやりながらお母さんたちの心の悩みを聞くみたいな。その時も、ピンク色っぽい服を着て来てくださいとかね、心理学的にピンクは柔らかい気持ちにさせて赤だったらちょっと興奮してしまうみたいなのがありまして。だからボランティアで何かする時なんかもちっとそういうね、教育委員会から今日の服装はこんな風にしていただけたらありがたいですとか、そういうのを言ってもらったほうがこっちもその気になって頑張ろうって気になったりするんで、こういう中にはそんなのは全然入り込めないでしょうけど、そういうことを積み重ねながら事業展開していただいて、お互いに本当によかったなって、この街で暮らして義務教育をここで受けられてよかったなとかそういう感想を持っていただけたら嬉しいなと思ったことでございます。はい、他に質問はございませんか。

(意見なし)

清胤委員)

報告・協議2 第13回科学アカデミーについてを議題といたします事務局より説明をお願いいたします。

佐々木主幹)

(第13回科学アカデミーについて説明)

清胤委員)

ご質問等ございませんか。

池野委員)

テンセグリティってなんですか。

清水課長)

数年前も実は行った活動なんですけれども。例えば橋を作る際の吊り橋を作る構造等に利用されている技術の入門編だと思います。例えば加計体育館に行くまでの五輪橋がこういう構造で強度を保っているんだよということをですね学習をしているようなものだったと記憶しております。

清胤委員)

実際に自分が渡っている橋がこういう構造で作られている、ということですか。

清水課長)

技術士会の方々も町内の橋を全部見て写真とか撮っていて。前回それを見せていただけたんじゃないかなと思うんですけど。橋の形状にも何種類かあって、みたいな話をしてくださった記憶があります。

清胤委員)

日本一長い橋とかいうのができたらいいですね。蔓でビヨンビヨン、よくあるじゃないですか。なんか名所みたいなのが。こういうのをきっかけに子ども達を作りたいとか思って将来作ってくれるようになるとか夢が広がりますよね。ゴムゴムペンギンってなんか想像できますけど楽しそうですね。夏休みだからいい経験になりますね。

他に何かありませんか。

清水課長)

テンセグリティとはですね、張力と圧縮力のバランスによって構造が安定するシステムで、棒状の具材は互いに接触せずケーブルやワイヤーなどの協力材によって宇宙に浮かぶように配置され、全体として力の流れが均等している、だそうです。

長尾次長)

瀬戸大橋みたいなのとかあるじゃないですか、そういうのを実際に設計とか携わられた方がこの技術士会のメンバーなんですね、毎回メンバーがうちの方へ来ていただいて子ども達に話ができるっていうことがですね、ありがたいことですし逆にそういった方も子ども達に伝承していくっていうやりがいを感じていただいているという風に毎回聞いております。

この活動に関してはですね、今 13 回なので十年以上続いている活動ですけれどもぜひ続けていただきたいなというふうに思っておりますので町としてもできる限りの支援をしていきたいと思います。

清胤委員)

素晴らしい企画を本当にありがとうございます。これまだ募集してるんですか。

佐々木主幹)

第1回につきましては募集の方、もう締め切っているんですけども。第2回についてはこれはちょっと高学年の方になるのですがまた後日お知らせをさせていただきます。よろしくお願いします。

清胤委員)

いかがでしょうテンセグリティもわかったことですし。

小田委員)

たぶん毎年 20 名以上、結構人数がいたような気がするんです。今年なんか1年生から3年生 13 名すごいなんか少ない気がするんです。せつかくある機会にいっぱいお子さん来ていただければ楽しいし勉強になると思うんですけど。

長尾次長)

確かに減ってますよね。全体の子どもの人数が減ってますけども。

小田委員)

そういうのに興味がなくなってきたのかも、と思いました。

河本委員)

会場は加計なんですね、平日の昼間いけないんじゃないですか。

小田委員)

送迎有りですよ。

長尾次長)

教育委員会が送迎しておりますので。

佐々木主幹)

こちらのポスターをですね、各校の方にも持って帰っていただいて掲示をしてもらっているとあるんですけども。先ほども私たちの方にも疑問が浮かびました、テンセグリティで何、そういうちょっとした具体的なところのPRがもう少し足りないかもしれないなと思いました。そのあたり来年工夫していけたらなと思います。

清胤委員)

ゴムゴムペンギンはすぐに出来てしまうんじゃないですか。ちょっと高度なものが、精神年齢が上がってるんで、これすぐできそうですよね。

河本委員)

ペンギンだったらもうちょっと難しい物の方が食いつきそうかも。

清胤委員)

全員でテンセグリティとか。

河本委員)

そう、なんか直ぐにできるような気がしてしまいました。

清胤委員)

確かに精神年齢上がってますよね。

清水課長)

この内容につきましては、基本ですね、講師の技術士会の方に考えていただいているんですけど、科学について触れる機会なので、実際のところ学習指導要領を照らし合わせてみますと、小学校1年生では生活科の授業があって、3年生から理科の授業が始まるということもあるので、本当に科学とか理科の入り口というふうな内容を考えておられるんですけども。技術士会の方々もどうやれば小学校一年生から三年生の子たちにも科学に興味を持ってもらえるかそれにはどんな内容がいいかっていうのは毎年苦慮していただいているところです。今頂いたご意見もですね、技術士会の方にお伝えさせていただきます。もうちょっと難易度の高いものができるかもしれないと思いました。

河本委員)

チラシだけを見ると、もうちょっとしたいって思う、私が1年生とか2年生とか3年生なら。もうちょっとなんかこうテンセグリティみたいな。なんかもうちょっとしたいなって思うかなと思います。

清水課長)

できたらちゃんと成果を持って帰れる題材にしようというのは考えております。家に持つ

て帰って、家の人と科学について会話をする一つのきっかけにもして欲しいというのもありますので、今のも考えながらですね、今後また検討していきたいと思っています。

清胤委員)

これは夏休みの宿題にもなりえるんですか。これにちょっと応用加えたら提出できるよみたいな文言があったら親もこれ行きなさいっていうことになるんじゃないかなと思うんですね。

清水課長)

今回のこの学んだことが、例えば学校の教科学習にも結びついていくと嬉しいと思います。

清胤委員)

そういう、必ず結びつくでしょう、素材にもなるでしょうみたいな、そういうちょっと誘うような文句があったら増えるんじゃないかなと思います。

長尾次長)

今までの例で言うと学校の夏休みの工作とかで学校に行くとみんな同じ物がずらっと並ぶってことは今までもありましたけれども。そこからさらに加えてですね、自分の並んだ中でもう少し踏み込んだものを作ってもらとかそういうところに発展していったらいなと思います。

清胤委員)

一匹のペンギンにつがいが出来たとかね、そういう感じでこう提出してもらえたら嬉しいですね。そういう膨らみみたいなものを自分たちで想像するのは難しい世代かなと思うので、そういうのをヒントにあげてたらなんか来てくれそうな気がしますね。せっかくの素晴らしい面々に指導していただける、そのことを知らないから応募しないじゃないですかね。

長尾次長)

お一人お一人、すごい技術力を持たれてる方なんで。聞いてみたらびっくりするような経歴をお持ちだったりするんですよ。

河本委員)

接してみたいですね。

池野委員)

こんなことできるよ、ってことちょっと付け加えてもらえば夏休みの宿題に役立つかもしれないですね。全く同じものを作ってもね。

長尾次長)

あんまりそういうのが本来の目的ではなくて、そこで使った例えばゴムの張力の話とかを学んでいくってところが本当は重要なところで、保護者さんがどう感じる部分なのか子ども達を感じる部分なのかどちらを取っていくかっていうのがおそらく難しいところなのでまずは子ども達に参加してもらいたいんで分かりやすい表現にチラシはしてるんですけど。

池野委員)

これはこれでいいと思います。

清胤委員)

以上で審議を終わりたいと思います。

それでは本日予定されておりました議案は全て終了いたしました。では次回の教育委員会会議の日程調整をお願いいたします

(次回の教育委員会会議の日程調整)

8月25日月曜日ということをお願いします。

以上で令和7年第7回教育委員会会議を終わります。ありがとうございました。

(午前10時10分 閉会)